

ファッション  
One Point  
アドバイス

秋だから、プリーツスカート  
がお洒落！

秋のプリーツスカートやプリーツパンツは、梳毛系のウステッドや紡毛系のウーレンといった生地ではなく、ポリエステルタフタ、ジョーゼットといったドレープ性の高いエレガントな生地なのが、断然、お洒落です。

春先と同様、小花柄でも素敵ですし、秋ならではの大人っぽさと都会的な装いをしたいのであれば、ボルドーや辛子、灰茶、媚茶といった深みのある色の単色プリーツがお勧めです。



タフタやジョーゼット

といった生地は軽く、また、ポリエステル使いの生地であれば、永久的にプリーツは取れません。お洒落なだけでなく、その後のお手入れも簡単で、特に服の取り扱いがよく分からないという方にはもってこいです。

ウール素材でないポリエステルのスカートでも寒さ対策は平気なの？と、ちょっと不安に思っている方も大丈夫。スカートやパンツの下に、厚手のタイツやレギンスを履けば、温かさも確保できます。足元は、人気のスニーカーで若々しさとカジュアルさを演出すれば、お洒落度もぐーんとUPします。

ウール地ものは家庭では洗えませんが、3~4シーズンであれば、プリーツ加工は取れません。ただし、ポリエステル生地と違って、ウール地の場合は、頻りに着用してプリーツの崩れが気になりだしたら、クリーニング店に申し出て、プレス加工をしてもらおうと良いでしょう。

## 絵画の中の洗濯風景

### セヌ川岸の洗濯船



ピエール=オーギュスト・ルノワール作 (1871年)

ピエール=オーギュスト・ルノワール(1841-1919年)は、日本でも大変人気のあるフランス印象派を代表する画家の一人です。明るいい色遣いによる『イレーヌの肖像』に代表される女性を優美に描いた絵画で知られています。

洗濯に関係する唯一のルノワールの作品が、この『セヌ川岸の洗濯船』です。しかし、全体に暗いイメージがあるルノワールらしからぬ絵画ではないでしょうか。この作品が描かれた1871年は、無名のルノワールにとっては、苦しい時期だったようです。1870年ルノワールは普仏戦争に従軍し、翌年除隊後、赤痢にかかって命を落としそうになりました。この絵は、そんな頃に描かれたものです。

「洗濯船」は、セヌ川岸に係留された庶民のための洗濯場で、現代のコインランドリーのように、使用料を払って、セヌ川の水で洗濯し、2階の物干し場で乾燥させて持ち帰るといった具合に利用されていました。

くらし応援ニューズレター

# HomeDry News

ホームドライニュース No.93



ファッション・ワンポイント: 秋だから、プリーツスカートがお洒落！  
絵画の中の洗濯風景: セヌ川岸の洗濯船  
衣類のケア講座: 秋冬物のコンディションをチェックしましょう  
衣生活の知恵: 紫外線による変退色を確認しよう

まごころクリーニング  
ホームドライ ホームドライ  
<http://homedry.or.tv/>





## 衣類のケア講座

### 秋冬物のコンディションを チェックしましょう

ほんのこの前まで、猛烈な台風とともに降り続く長梅雨かと思えば、一転強烈な日差しの40℃近い猛暑の日々が続く短い夏も終わりに近づいて、秋の気配が漂い始めています。

目まぐるしく移り変わる季節の中で、着用する衣類にも迷う日々です。

秋になれば、すぐに寒波が押し寄せてくると予想されているようです。そこで、夏物の仕舞い洗いにあわせて、秋冬物の準備をしましょう。

#### ●通気性の良い状態にして虫干し

まずは、晴れて乾燥した日にクローゼットから秋冬物を取り出して虫干ししましょう。「虫干し」は晩夏の季語ですが、現代の高温多湿な夏よりも、初秋の乾燥した時期がおすすめです。

「虫干し」は、日本の気候風土から生まれた衣生活の知恵です。衣類にとって高温と湿気は大敵です。虫食いやカビの原因になるからです。このため、年に数回衣類の



虫干しをしたいものです。

窓を開け、通気性の良い状態で陰干しして、クローゼットにこもっている熱気と湿気を取りましょう。

#### ●虫食い、カビ、シミをチェック

虫干ししたら、収納する前に、「虫食い」「カビ」「シミ」をチェックしましょう。

虫食いは、特にウールやカシミアなどの獣毛製品に発生しがちです。表面の生地の乱れがあれば注意して確認しましょう。



カビは、湿気がこもりやすい状態で発生します。特に、ポリエチレンカバーなどに入れたままで保管していると、湿気が発散されることがなくカビが発生しやすくなります。



また、昨シーズン収納したときには気が付かなかったシミが、保管中に酸化して目立つようになってことがあります。これは、お酒や果汁などが付いたままにしておくと透明だったものが茶褐色に変色してしまったからです。このように変質したシミは、取れにくくなってしまいますが、必ずご相談ください。



### 紫外線による 変退色を確認しよう

地球温暖化やオゾン層破壊による紫外線の増加など、環境問題は深刻の度を増しています。

どんな素材のどんな色でも、紫外線を浴びると色素が酸化され退色していきます。日本工業規格（JIS）では、紫外線に対する染色の耐久性を試験する制度が定められています。染色の技術や染色工程によって光への耐久性は変わってきます。

また、濃い色ほど変退色の差が際立ちます。衿の付いている服は、衿を裏返して普段光の当たらない衿に覆われた部分と肩など光に当たる部分を比較してみましょう。

衿周りなど肌と接する部分は汗がしみ込みやすく、汗を含んだ部分に紫外線が当たるとより退色しやすくなります。洗うと全体の汚れが落ちて、変退色が鮮明に現れることがあります。

